

令和 6 年度第 2 回 能勢町地域福祉計画推進委員会

日時	令和 7 年 1 月 21 日(火) 10:00~11:40	
場所	能勢町保健福祉センター 集団指導室	
出席者	委 員 長 齊藤 弥生 副委員長 乾谷 晃 委 員 奥畑 司 委 員 黒島 雄貴	委 員 桂 隆信 委 員 角田 みどり 委 員 三浦 嚠子 委 員 林 義浩
欠席者	委 員 瀬川 輝代 委 員 野木 幸代	委 員 八木 キヨミ 委 員 宇佐美 哲郎
事務局	能勢町 福祉部 部長 寺内 福祉課 課長 和田 係長 小豆島 主事 森田 能勢町社会福祉協議会 事務局長 松下	
会議の公開	公開	
傍聴者数	0名	

1 会議次第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 題
 - (1)第5次 能勢町地域福祉計画策定に係るアンケート調査の実施について
 - (2)第5次 能勢町地域福祉計画策定に係るアンケート調査票(案)について
- 4 その他
- 5 閉 会

2 審議経過

事務局

それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和 6 年度第 2 回能勢町地域福祉計画推進委員会を開催させていただきます。私は福祉課長の和田でございます。本日の司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。皆様方におかれましては、お

忙しい中ご出席をいただいておりますことをお礼申し上げます。本日は皆様の貴重なお時間をいただいての開催となりますので、午前 11 時 30 分をめどに終了したいと考えております。短い時間で恐縮ではございますけれども、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

それでは、まず会議の開催に当たりまして、斉藤委員長よりご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

委員長

ただいまご紹介をいただきました、大阪大学の斉藤と申します。主たる研究テーマは、高齢者介護なんですけれども、高齢者介護の政策も地域福祉と切っては切れない関係になっておりまして、地域福祉の研究も、10 数年前からやっております。昨年、民生委員の皆さんの研修会にお招きいただいたことがご縁で、この度この計画策定の委員会の委員長を務めさせていただくことになりました。及ばない点もございますが、皆さんのお力をお借りしながらいい計画を作りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。座ってお話を続けたいと思います。

本当はこの地域福祉の動向について、冒頭に少しお話をというふうに事務局からご依頼いただいていたんですけれども、また別の機会に皆さんと一緒に確認しながら進めていけたらいいなと思います。

この 5 年前と今とでは、かなり情勢が変わっているということを、今日は冒頭にお伝えしたいなと思います。2017 年に社会福祉法の改正があって、地域福祉計画がいろいろな福祉計画の上位計画にしなければいけないという法律ができました。高齢者の関係の計画があるし、障がい者の計画もあるし、それから子どもの計画もあるし、いろいろあるわけなんですけれども、地域福祉計画というのがなんとなく今まで横並びにあったんだけど、そうではなくて、それらを束ねる上位計画にして、地域全体の福祉を考える時代ですよということが、社会福祉法の改正の中で言われるようになりました。

それで、地域福祉計画というのはできるだけ作ってくださいというものだったんだけど、社会福祉法の 2017 年の改正では、策定の努力をすることが義務であるという、努力義務であると言われて、実際に今全国的に見ても、8 割から 9 割の自治体でこの計画を作っているという状態です。大阪は全国的に見て、この地域福祉計画の策定は早いです。能勢町でも次は第 5 次、本当に全国の中でもトップランナーということが言えると思います。そういう立ち位置にいるということです。

それから 2020 年にまた社会福祉法の改正で、地域共生社会という言葉が法律の中にき

ちんと入ってくるようになっていて、ますます地域福祉主流化という言葉もありますけれども、そういう時代になってきました。私も高齢者介護のことをずっと研究してきたんですけども、高齢者介護も事業者と専門職の話だけでは収まらなくなってきています。今日も事業者の皆さんにお越しいただいてますけれども、やっぱり地域の皆さんとどうやって協力しながらサービスを作っていくかということを考えないといけない時代になってきています。それから民生委員の皆さん、地域の皆さんの役割もますます大きくなってきているということがあります。そういう中での能勢町の地域福祉計画の策定であるということをまず申し上げておかなければいけないのかなという流れがあります。

それと、あともう一つ申し上げなければいけないのは、能勢町の場合というか、大阪全体でそうなんですけれども、ある種地域福祉計画という意味ではトップランナーを走っていた部分があって、社会福祉協議会さんが作っている地域福祉活動計画と、行政が作る地域福祉計画の二本立てでやってところが大阪府の中では結構多いんです。今回は能勢町もそういう二本立ての方向でいくんですけども、将来的にこれを考えたときには、一体化していくというのがなんとなく全国的な方向性かなというふうにも思っていて、住民参加の計画である地域福祉活動計画と、行政計画がより近い距離になっていくということが重要なこととも考えています。

だけどその辺りにつきましては、また皆さんからのご意見を伺いながら、能勢町では今までどおり伝統的に二つの計画をやっていくんだというお考えもあると思いますし、またその連携をどうしていくのかというのも、この委員会の中で議論ができればいいなと思っています。

前置きが長くなりましたけれども、そういう時代の中でのこの計画作りが始まるということで、私も緊張しておりますが、気を引き締めて取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございます。

さて、本日は、瀬川委員、野木委員、八木委員、宇佐美委員の4名の委員の方につきましては、ご欠席の連絡をいただいておりますので、あらかじめ申し上げます。また委員12名のうち、8名のご出席をいただいておりますので、能勢町地域福祉計画推進委員会設置要綱第7条第2項の規定により、本日の委員会が有効に成立していることをご報告させていただきます。なお本委員会の会議につきましては、同条第4項の規定に基づきまして公開となっております。それから議事録につきましても、後日ホームページで公開させていただきますのでよろしくお願いいたします。

また、今回の委員会から計画作成に係ります業務を行う委託業者の方がアドバイザーとして参加していただいておりますのでご紹介させていただきます。株式会社HRCコンサルティングの桑山様でございます。よろしくお願いいたします。それではこれより先の議事につきましては、委員長より進行をお願いいたします。

委員長

ありがとうございます。それでは、早速に議題に入ってまいります。次第をご覧ください。
「1. 第 5 次能勢町地域福祉計画策定にかかるアンケート調査の実施について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局 資料に基づき説明)

委員長

ありがとうございました。今、今後の進め方等について事務局から説明がありましたけれども、何かご質問ありませんでしょうか。今のお話ですとこの委員会は、次に開催されるのが 7 月です。年度内に 7 月に加えて、10 月・12 月・2 月というような開催で、2 月のときには計画の最終確認というスケジュールかなと思います。おそらく次回皆さんにお会いする 7 月には、このアンケート調査の結果がかなり明らかになっているだろうと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。お忙しい中ではありますけれども、皆さんには 4 回会議ご出席いただくこととなります。また会議の間に色々お問い合わせやご意見を伺う機会も出てくると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それではないようですので、次に進めさせていただきます。また出てきましたら、随時ご質問ください。続きましては案件 2「第 5 次能勢町地域福祉計画策定にかかるアンケート調査票案について」、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 資料に基づき説明)

委員長

ありがとうございました。それでは、委員の皆様のご意見を伺ってまいりたいと思いますけれど、特にこれを入れた方がいいとか入れない方がいいとかいうのを、事業者の皆さん、住民の皆さんそれぞれのお立場でご意見いただければと思います。まずはそうしましたら、表紙の部分と 2 の前までで何かありますでしょうか。

委員

調査票の 1 ページなんですけど、ここに「性別をお答えください」という項目があるんですけど、「答えたくない」という項目は配慮があったかと思うんですけど、必要ないんじゃないかと個人的には思います。アンケートをする上で、男性、女性というのは大事な分岐点になると思いますので、わざわざここに「答えたくない」という項目を設ける必要はないんじゃないかと思っています。

委員長

事務局、いかがなものでしょうか。最近の動向を申し上げますと、だいたい最近行政のアンケート調査はLGBTQの観点から「答えたくない」というのが入っています。でも委員がおっしゃっていることはよく分かります。調査をよくやる立場からすると、これは本当に悩ましい問題で、はっきり男性の考え方、女性の考え方というふうに分けて分析したいところなんですけれども。

委員

書きたくないければ書かなければいいわけなんで。「答えたくない」という項目を書く必要はないんじゃないかと思うだけです。

委員長

そうですか。でもおっしゃるとおり、そういうご意見は理解できます。「答えたくない」という言い回しを考えるとか。

委員

背景はよく分かるんですけど。

事務局

今回WEB回答をできるようにいたします。それで選択肢を例えば男女だけにして、答えたくない人が無回答のまま進めたとして、エラーが出ないかどうかとか、そのあたりもありますので、確認が必要かなと思います。

委員長

では確認をお願いしたいのと、他に「答えたくない」以外の表現があるのか見ていただいて。

事務局

おそらく今回地域での支え合いという点でも、LGBTQに関する記述を入れさせていただいていたり、そこに対して隔たりがあるのかどうかというところもお聞きしたりはしていますので、一概に男性と女性だけを残してしまうのは、できれば避けた方がいいのかなと思っています。ただ選択肢として「答えたくない」なのか、あるいは「無回答」なのか分からないですけれども、そういった選択肢はある方がいいのかなと思いますので、表現等は考えさせていただければと思います。

委員長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委員

「答えたくない」というのも答えなくていい選択肢で、「その他」とかあいまいですけど、人間の性別にその他なんでもないわけですから。そのことにちなんでですけど、ここに今も話題になっています、自分の戸籍、名前、別姓など。男女の話をするならば、「旧姓を名乗りたいと思いますか」とか、これ大事なことだと思うんです、今後。財産問題とか相続問題とか出てくるかも分かりませんが、それ以前の問題として、親権の問題とか大変重要なことだと思います。ですから、そこらへんも意識しておいた方がいいのかなと思いました。

委員長

おっしゃるとおり大事なことで、今国会でも議論になるところですから、ただ今回は地域福祉というところなので、おそらく町全体の町民意識調査みたいなものは、総合計画とかを作るときに行われるんじゃないでしょうか。そちらの方がいいかもしれないと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局

もちろんそれも重要な内容ではあると思いますが、確かに委員長のおっしゃるところにもあります、できるだけ地域福祉に絞って、質問数としてはあまり重たくすると答えにくくなってしまふというところもありますので、今回の地域福祉に関するアンケートではいいのかなというふうに思います。

委員長

例えば総合計画みたいな市全体の計画を作るようなときに、町民全体にアンケート調査をすることが多くて、例えば今おっしゃっていたのがすごく重要なのは、東京やなんかの自治体では同性の結婚であるとか、そういったパートナーシップを認めるみたいな自治体の様々な施策が出ていますけれども、そういう別姓使用であるとか結婚であるとか、そういったものに対して能勢町がどう考えているのかというのをアンケートで問うというのは、とても大事なことだと思います。

委員

子どもの安全対策を考えると、離婚したってどちらが迎えに来るか、この子はうちのお父ちゃんに渡さないでとか、大人の問題が子どもに影響して、子どもはうろろうろしてしまう。自分はどこへ行ったらいいのか、性別の問題もさることながら、これは非常に人権問題だと思うんです。それで別姓の話ですけど、人間の生命の問題、それから単位の問題、家庭の問題で

す。そこらへんはどう考えていますかというのは、意識調査に入っているでもいいのではないかと思います。

委員長

そうしましたらご提案ということで、町内で行われている他のアンケート調査に含めることができるかとか、いろいろ事務局と検討させていただきますので、預からせていただくということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

他によろしいでしょうか。そうしましたら、「2. あなたの住んでいる地域に関する意識や行動について」ということで、何かお気づきの点がありますでしょうか。

委員

問 14-1 なんですけど、「婦人会活動」というのはあるのですか。さっきの話にかぶるかもしれませんが、「婦人会」という言葉が、例えば更生保護女性会は、かつて更生保護婦人会だったかと思うんですけど、そういうふうに名称を変えておられます。うちの地区でも婦人会はなくなったんですが、まだ婦人会というものはあるんでしょうか。なければ削除したらいいと思います。

それから「13. フリースペース」という意味がよく分からないです。業界や福祉をされている方ならごく普通に使う言葉が、たくさんこのアンケート調査票にもあると思います。無作為で80歳以上の方も対象になっているということで、英語の概念を日本語に合わせるのは難しいと思いますが、可能な限り日本語に、身近な言葉で説明して、アンケートのトーンを柔らかくしていただきたいなと思います。

委員長

ありがとうございます。私は宇治市に住んでいますけど、宇治市では「女性会」と名前を変えて活動はあります。能勢町はどうでしょうか。

事務局

私は町内に今住んでおりますけれど、私の地区も確かに「女性会」であります。もしかしたらかなり変わってきているのかなと思いますので、確認をさせていただければと思います。

あと「フリースペース」というのは、定義的なものになりますので、選択肢を置き換えるという方向性というよりは、「フリースペースはこういうものです」ということを、他のところでも補足を入れた方がいいなというところについては、質問の下に補足を入れているところがございますので、そのような形で検討させていただければと思います。

委員

あと、民生委員児童委員協議会の活動も入れていただいたんですけど、福祉委員の活動と

いうものがほとんど抜けていまして、後半に一部あるんですが、例えば「困ったときの相談相手」の中にも福祉委員の名称がないので、それを統一してもらって、全部入れていただきたいというふうに思います。

委員長

それは大事なご指摘だと思いますのでよろしく願いいたします。

事務局

承知いたしました。

委員長

民生委員児童委員協議会活動といたら、基本的に○をするのは民生委員児童委員の人だけですね。どうなのでしょう。それに関わったら○をするのでしょうか。

委員

それに質問しようと思っていたのですが、協議会活動、ずばりこの表現はなじまないかなと思います。「地域の行事に参加していますか」という上段の質問でここから選びなさいということですから、今言いました福祉委員活動とか横並びをするならば、「民生委員児童委員活動」で終わってしまう。「協議会活動」という表現はここではなじまないのかなと思いました。せっかく追加で入れていただけるようなんですけど、「協議会活動」というのは外してもら方がいいんじゃないでしょうか。民生委員の名称として残すのなら、「民生委員児童委員」あるいは「福祉委員」というような表現でいいと思います。

委員長

的確なご提案をありがとうございました。そのようにご検討をお願いします。

2番のところはよろしいでしょうか。そうしましたら「3. 生活課題について」です。何かお気づきの点はありますでしょうか。

5ページの問18です。「家族以外の誰に相談しますか」というところに、地域包括支援センターは入れないのかなと思いました。4番に含むのでしょうか。地域包括ケアとかいう中で、大事なセンターかなと思うので、4番に入れるんだったら名前も入れてもらうといいのかなという気がします。

事務局

前は載っていたんですが、本町の場合、地域包括支援センターは町の介護保険の担当部署がやっていますので、それは保健福祉センターに入れていただいて、要は地域包括支援センター以外にも、子ども未来応援センターや総合相談センターというものもある中で、それが

逆に分かりにくいので一つにまとめさせていただいております。

委員長

私が高齢者の専門だから地域包括支援センターと思うけれど、他にもいろいろセンターがあるから、全部名前を書いちゃうとすごいからですね。

事務局

分かりづらいのかなというところで、集約させていただいたというのが今回のところです。

委員長

確かにそうかもしれませんね。能勢町の場合だと、役場に機能が全部集約されているから、「役場」というので良いのかもしれませんね。だから「地域包括支援センター」とか「〇〇センター」という認識では住民の皆さんが捉えていない可能性があるということですね。これは地域の特徴だと思いますので結構です。

委員

問 18 なんですけど、「家族以外」というところで、家族に相談できない方もいらっしゃると思います。選択肢の中に家族は入れて、家族にも相談できない人を抽出するというのが大事なのかなと思いました。家族に相談できるという方ばかりではないので。家族にできない方もいると思うんです。問の中に家族は絶対という感じがするんですけど、今の世の中家族に相談できないという方が自殺とかこのあたりもあると思うので、家庭環境の良い人ばかりではないのが現実かなと思います。

事務局

選択肢の中に「家族」を入れて、問うていくような形にできたらというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

委員長

問 18 のところの問が「家族以外の誰に相談しますか」ではなくて、「困ったとき、誰に相談しますか」みたいにして、選択肢の中に「家族」を入れるということですね。すごく大事なご指摘ありがとうございます。

委員

問 19 のところで、情報のソースとして「12. 町広報」が挙がっていますが、町のホームページは町広報として取り扱うのかどうか。ホームページとしてどこか明確に入れていかれるのか、そのへんどういうふうに扱っていかれるか。町広報といいましたら、我々は毎月いただく

広報誌「広報のせ」の意味合いかなと思っていました。

委員長

「町広報」というよりも『広報のせ』の方がいいかもしれません。

委員

『広報のせ』とするのが一つと、ホームページも載せていただくか、そのへんよろしくご検討ください。

事務局

でしたら 12 番の選択肢を、町が発信する広報であったりホームページであったりからお聞きするという形の選択肢で。

委員長

先ほど委員がおっしゃったみたいに、インターネットなのか紙媒体なのか知る必要はないんですか。インターネットの利用が増えているのか、それとも従来の紙媒体が多いのか、割と大事かなと思うんですが。でも項目が増えてしまうという悩ましい部分があります。

事務局

一方で 11 番に「インターネットと SNS」という選択肢がございますので、インターネットと SNS はおそらく町以外のものも含めて広くお聞きしているという形にはなっているので、どちらに入れるのかあるいは独立するのかというところは、確かに論点なのかなとは思います。

委員

ホームページと広報誌を 2 つ併せて町広報という扱いにしていけるか。

委員長

はい、そのように。「町広報」とだけ書くよりも、具体的に描いた方が、特に高齢者には分かりやすいですね。それでは、そのようにお願いします。

では、3 番よろしいですか。そうしましたら「4. 自殺対策について」について、ここは今回の調査で新しく入ったところですが、いかがでしょうか。「ゲートキーパー」という名前もよく使われますが、なじみのない単語なのでご説明を入れていただいているということですね。

委員

問 23 なんですけど、必要あるのかなと思います。言葉を読んでいたらすごく痛いというのか、なぜ聞かれないとダメなのかという気がします。問 22 の項目あたりでだいたい輪郭が

分かるんじゃないかと思います。さらに突っ込んで聞くかという気もするんですけど、どうでしょうか。必要があれば聞いたらいいと思いますが、問 22 で助けてほしいけどためらいを感じている人がたくさんいるところから、そういうところへ推測できる数字なのかもしれないと思いますがどうでしょうか。個人的には問23の質問はすごく痛い気がします。

委員長

ありがとうございます。私も実はここをマークしていたんですけど、同じような印象を持っていて、最後の「死にきれなかった」とか「『思いとどまった』とは言えない」とかになってくると、もし当事者の方がいたらフラッシュバックとか、そういうこともある設問になっちゃうかなと思いました。こういう設問が行政のアンケートが使われるかどうかは確認した方がいいかもしれません。

事務局

ありがとうございます。今回自殺対策につきましては、本町の地域福祉計画とは別で自殺対策計画というものが策定されておりました。ただ自殺対策というのは、地域福祉計画の基本目標の一つとして、誰もが安心して生活できるまちづくりを掲げていることを踏まえて、生きることの促進要因を増やして、生きることの阻害要因を減らしていくことを考える中で、地域福祉計画と一体的に作成する方がいいのではないかというような自殺対策の関係の会議の中での意見も踏まえて、今回新たに包含していこうというような形で進めているという話で質問を入れました。この内容自体は他市町村の調査事例を基に入れておりますので、当然聞いているところもあるかと思います。目的としては、どういったところで思いとどまったかということを含めて対策に活かしていこうということではあると思うんですが、確かにおっしゃられるように非常に重たい内容かなというようなところはあります。問 24、問 25 で自殺対策としてどのようなことが有効かということ聞いておりますので、そういったところでどういった対策が取れるかということも回答できるので、今回問 23 については、ご意見踏まえて削除の方向で進めさせていただければと思いました。ありがとうございます。

委員長

そうしましたら、ご検討をお願いいたします。今、事務局がおっしゃったように、自殺の関係の防止するための対応を地域福祉の中に入れるということは大事なことだと思います。

では、「5. 地域での支え合いについて」というところで、地域福祉のある種のメインのところになってくるかなと思いますが、いかがでしょうか。

一つは、先ほど事務局の方にも申し上げたんですけど、問 26 です。「公助、自助、互助」とありますが、「共助」を入れた方がいいかなと思います。地域包括ケアの中でもこの 4 つが役割がありますといわれていますので、4 つ入れるということをご検討ください。

あと 9 ページの問 28 です。これも問題が増えてしまうから、増やさないようにと思ってや

るからこういうふうになるんだと思うんですが、「高齢者や障がいのある人、LGBTQ を地域で支え合い、見守る活動があれば、参加したいと思いますか」についてです。高齢者や障がいのある人を見守るとか支え合うとかいうのはあるんですが、LGBTQ の人たちに対してどっちかという支えとか見守るというよりは、理解するとか人権の問題だと思うんです。そういう方々がいらっしゃるということを理解するということで、ちょっと違うというような気がします。どうでしょうか。

事務局

一つ、ご指摘いただいた案を踏まえてなんですけど、問 30 の質問で LGBTQ を外させていただいたという項目があったりしますので、今回問 28 の設問に関しては、「地域で支え合い、見守るような活動があれば参加されたいか」ということをお聞きできればと思っていましたので、高齢者や障がい者のある人のみで、LGBTQ は削除した形での質問とさせていただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

委員長

それがいいと思っていて、ご提案いただいたようにどこか別のところに、多様な人たちが地域に住んでいるということの理解について確認するようなものを選択肢で入れる。例えば、問 30 のところの「今後の能勢町の地域福祉の推進に重要だと思うことは何ですか」の部分に「LGBTQ の方々など多様な人たちに対する理解を深めること」とかというのを入れるといいかもしれませんね。またご検討をいただければと思います。「LGBTQ の」というよりは「LGBTQ の人たち」かなと思います。

委員

問 27 なんですけど、「下記の人に対する特別なへだたりを感じますか」という問いかけなんですけど、ここも「下記の人」という言い方はちょっと引っかかる気がします。例えば「地域社会の中でどんなときに隔たりを感じますか」として「高齢者と接する場合」「障がい者のある人と接する場合」とか特に感じられる項目を入れて、「下記の人」という言い方はどうかなと思います。

委員長

おっしゃるとおりですね。ご検討いただければと思います。「地域社会の中には多様な方々が暮らしています」「次の人たち…」など。

委員

「下記の人たち」という言い方が冷たいです。

事務局

言葉を緩和するような形での質問あるいは選択肢という形で承知いたしました。

委員長

やはりアンケート調査というのは、そういうところ大事ですよ。『そういう質問には答えたくない』みたいに回答者が思わない聞き方というのが大事だと思います。

他いかがでしょうか。このあたり特にイベントなどについて聞いていますが、これは1,000人を抽出するので、若い人から高齢者までみんな入っていると思うんですけど、文字が多いなという感じがします。聞きたいことがたくさんあるのでどうしてもこうなりますが、行間を開けるとか、何かそういう工夫で見やすくということは。あんまり難しい言葉でいっぱい文字があると、逆に適当に○をつけられてしまい、きちんとした結果が出なくなってしまうという問題もありますよね。

では、次にいきたいと思います。『6. 災害時の対策について』です。14 ページの間 37 なんて、漢字が多いなという感じがします。『避難行動要支援者』と言われてもピンと来ないから、上に括弧書きで『災害時に支援を必要とする人』が前に出てきた方が分かりやすいかな。『災害時に支援を必要とする人がどこにいるのか』というふうに書いた方が分かりやすいかなという気はします。でもその下に説明が書いてありますけど、単語なんですよ。基本的に聞きたいのは、14 ページの間 37 ですけど、『避難行動要支援者』というのが災害時に支援を必要とする人なんだけど、名簿に載っている人をイメージしているんでしょうか。名簿に載ってなくても支援が必要な人は微妙にいたりする、グレーゾーンの人たちがいるじゃないですか。そこを聞きたいんだったら『避難行動要支援者』と聞かないとだめですけど、もう少し緩やかに登録してない人でも、そのとき偶然体調が悪かったりとか怪我をしていたりとかあったりしますけど、どうなんでしょうか。これは前回やったわけですね。回答はそれなりに出ています。

事務局

こちら全体の回答率としましては、約 50%です。こちらの部分は間 40 の質問が丸 1 ページかかるというところで、若干押し込み式でしたというところはあるんですけど、今回現状ご提案したアンケート調査は 18 ページということで、最終的には 4 の倍数になるので、このまままだ 2 ページ余白という形になるので、特にご指摘いただいた漢字が多いというところのページを余っている余白を使って、少し広げるとかいうことは問題なく可能だと思います。

委員長

分かりました。運用上の事情もあると思うので、絶対ひらがなとか分かりやすい替えが必要というわけではないんですけど、パッと見たときに『わー、漢字』という感じがします。

委員

今おっしゃいました問 37 なのですが、避難行動要支援者について何が必要ですかという問いなのですが、問 37 自体が僕はいるのかなと思ってみたりしています。大きい括りで災害時の対策について聞いておるわけで、あえて避難行動要支援者、福祉の観点からそういうとらえをされたかと思うんですが、支援者限定でこの項目を聞いたところで得るものが少ないなと思ってみたりしています。反対に問 38 でぼやっとしたことが分かってきますので、あえて要支援者だけがどういう対応や設備がいりますかと聞くことはないと思います。選択肢の 5 なんか特に、避難行動要支援者向けの避難所なんかあればいいんでしょうけど、現実的なものではないと思いますし、要支援者の名簿に載っている人が避難先まで地域の人が協力して避難させましようというのはあるわけだね。その中で要支援者向けだけの避難所なんてどういうふうにするのか、非現実的な要因があるもので、問 37 はどうかなと。あればいいんでしょうけど、あったからどうかという問題でもあるような気がしますので、ご検討をお願いしたいと思います。

委員長

啓発の意味もあったりするんでしょうか。アンケート調査って行政はこういうことを考えていますよということを知らせるという役割もあるじゃないですか。こういうものがあるんですよ、そういう役割のある設問なのかもしれませんね。委員がおっしゃったようなことは私も感じていますけれど。おそらくみんな必要で、みんな○をつけますよね。それでもやっぱり必要のないものはないですよ。だけど防災に力を入れるんだという行政の姿勢を示すという設問というふうに、行政が行うアンケートにはそういう趣旨もある場合がありますから。

そういう意見が出たということで、ページ数も含めて、もしページ数が足りなくなったら、この質問の数を減らすとか、なくしてしまうとか、ご検討いただく場所かなというのでよろしいでしょうか。

事務局

ありがとうございました。この項目ですが、「何が必要だと思いますか」ということにしてしまうと、全てが必要というところはあると思います。一方でこの中でどこを優先的に考えていくべきかという行政としてのみなさんの意見を吸い上げたいという思いもあるというところで、例えば「特に何が必要だと思いますか」として、○を一定「3つまで」とか数を限って、特に必要だと思われるものを抽出していくといった手法での回答というのはありかなと思いますので、そういった方向で検討していただければと思います。

委員長

よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

では、「7. 地域福祉に関わる機関や団体について」です。皆さん見ていただいて「私の関係

しているものがない」とか、そういうことがあればご意見いただきたいですし、表現がおかしい、気になることがあればご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

社会福祉協議会事務局長

15ページですが、まずは社協の活動を掲載いただきまして大変ありがとうございます。内部で調整できるものではあると思うのですが、まず前段で問40-1の「12.生活支援体制整備事業」の右側の説明で「主に旧小学校区(天王、岐尼、久佐々、田尻、東郷、歌垣)」というふうにご説明いただいています。この問自体は前回の第4次のものを引っ張ってきているので、変わりがあるかないか分からないんですけど、この「主に旧小学校区」と書いたもので考えていけば、1番の地区社協、または校区社協ともなる地区福祉委員会活動、小地域ネットワーク活動においても、いわゆる旧小学校区単位で行っています。7番のコミュニティソーシャルワーカーの活動についても、社会福祉協議会はこの5校区でやっているというところがございます。ですので、あえて12番の生活支援体制整備事業だけ「主に旧小学校区」というふうに細かく説明するのは省いて、もしくは1番、7番を同じような形にするか、どちらかに統一いただけた方がいいのかなということです。

あと12番の「生活支援体制整備事業」においては、住民さんとともに地域でサービスを実施していこう、取り組んでいこうという事業なんですけど、その生活支援体制整備事業の中から生まれてきたのが22番の「地域あつまろうよ事業」になっております。これについても旧小学校区単位の事業の展開となります。ただそれを全部入れるのか、入れなくて事業の大まかな説明をしていただく方がいいのかなと思います。なぜ12番だけ細かく書いてあるのかなという思いがいたします。

あと18番の「車いすや車両の貸出」とあるんですが、車両の貸出は社協はやっておりません。ただし、地区福祉委員会が行う地域活動に限定して、公用車を活用いただいているということではございます。一般車両を貸し出そうと思ったら、道路運送法の事業許可を取らないといけないため、車両の貸出という文言はなくした方がいいのかなと思います。社協事業は細かくたくさんあるので、ましてや「これ何の事業？」というのが結構多くて、また福祉の事業はカタカナや分かりにくい書き方が多いもので、社協自体もホームページやパンフレットとか、地区の中でご説明に行ったりなど、ご説明しているところではございます。関わっている方はご存知な事業も多いかと思いますが、一言でご説明しにくい事業が多々あるので、書き方については事務局さんには申し訳ないなと思っています。先ほど申し上げた点についてご検討いただけたらと思います。

委員長

ありがとうございました。社協さんの活動は地域福祉になくてはならないものなので、このところは形を変えてぜひ入れていただきたいと思います。社協さんからのアドバイスをいただきながら、調整をしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

よろしいでしょうか。また気が付いたことがありましたら、まだ一両日中でしたら事務局の方に FAX か電話かメールか何かでお届けいただけたらと思います。

それでは議案 2 については、ご意見を頂戴したということで、「3. その他」に移りたいと思います。同時に地域福祉活動計画推進委員会も並行して計画づくりをされているということで、ご説明をお願いします。

社会福祉協議会事務局長

社協の年間の活動計画による地域福祉活動計画ですが、社協としてご覧の通り、4 回実施をしたいと思っております。活動計画を進める中で、どのように地域の状況を把握して意見を聴取するかというところで、2 つ目のところに「地域への意見聴取」ということがございます。そのご意見を地域にお集まりいただいてお聞きするのか、アンケート方式とするのかというところは検討中でございます。ちなみに、第 1 次の地域福祉活動計画においては、地域座談会を校区ごとで行いまして、集約をいたしました。第 2 次はそれを引用した形で、今回の第 3 次ですが、コロナ禍ということもございまして、アンケート方式を取らせていただきました。どういう方式で行うかということは検討しながら、ご覧いただいているとおり 4 回実施したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員長

ありがとうございます。コロナ禍ということでアンケートされたということですが、地域懇談会は本当に大事な取り組みだと思いますので、社協の皆さんは大変だと思いますが、ぜひ実施をしていただきたいなと思います。ありがとうございます。もしまた合同で会議をするみたいなことがあってもいいのかなと、事務局の仕事を増やしてしまうような発言をしてすみません。やはり両輪ですので、社協さんと行政の計画が同じ方向を向いて走っていけるような計画にしていく必要があると思っています。随時、事務局長からは進捗状況についてご報告いただけるものと思っていますのでよろしくお願いいたします。

何か、ご質問ありますか。

委員

ミスプリントがあります。問 40-1 の「19. 居宅介護支援事業(介護保険)」の説明で「ケアマネージャー」が「ケアマネジャー」になっています。

事務局

承知いたしました。ありがとうございます。

委員

直接アンケートの項目等についての質問ではないんですが、調べてみますと、この第 4 次

の計画を作るときに、令和 2 年度でしたかアンケート調査をやられて、第 4 次の計画が策定されました。そのときのアンケートの実施項目が、今回ここに示してある項目とほとんど一緒なんです。追加削除、文言推敲は今回あるんですが、だいたい基本となる項目は令和 2 年度の第 4 次の計画と全く同じだというような観点からみますと、計画の基礎資料として使いたいアンケートが、2 期を通して同じアンケートの項目を繰り返して、はたしてどういう成果が得られるものか違和感的なものを感じています。第 4 次はあと 1 年残すんですが、第 4 次をやるときアンケートの結果、達成度はこの今の第 4 次計画でどれだけ消化されたのか、達成されたのかあるいは到達されたのか、そのへんの評価、総括的なものはされるのか、そういうつもりがあるのか。まずしていかないと、今回のアンケートも同じことの繰り返しをやっている、はたしてそれが新規の計画と言えるのかどうかという気がするんですけどね。ですから、そのへんしっくりいかないものがあると思うんですが、できたら第 4 次の総括的な評価をされるときアンケートの内容をチェックしてもらわないと、第 5 次は第 5 次でまた同じアンケートを繰り返して、どうですかというのが計画の手法だとは思いますが、その点の意見として聞いていただけたらと思います。

事務局

今いただいたご意見というのは、今期計画の総括というところになるのかと思います。まずアンケートについては、今回提示させていただく際に、ベースとさせていただいたのは資料 3 でもご説明させていただいたところなんですが、集計とか分析等々を前回と比較してもどうなのかというようなこともある程度できたらいいかなというところで、アンケート調査票を作成させていただいたところです。

一方で、委員がおっしゃられるような、達成度等々ということにつきましては、今年度この委員会は 2 回目になるんですが、前回の夏に実施させていただいたときに、この計画に基づいて具体的な事業をどういうふうにやっていくのかというところについての個々の事業の進捗については、ご提示させていただいております。各年度といいますか、中途での進捗というところをご審議いただいているところになります。当然ながら来年度は最後 5 年度というところで最後になりますので、その進捗というところをしっかりと事務局でも取りまとめさせていただきますので、そちらの各事業が今年度中までにどういうものだったかということについては、ご提示をさせていただいて、ご審議いただければというふう考えております。

委員長

ありがとうございます。問題がほぼ同じであるというのは、前回と比較をする、そしてそれを評価につなげたいということと受け止めたので、7 月の報告を楽しみにしたいと思います。そんな感じでよろしいですか。

委員

アンケートと計画が分離しないように、一体的な要素になってくると思いますので、そのへんをよろしくお願いします。

委員長

よろしくお願いいたします。それでは、本日の議題は全て終了したと思います。進行を事務局にお戻ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局

本日の議題については以上となります。慎重なご審議をいただきましてありがとうございます。ここで副委員長より閉会のご挨拶を頂戴したいと思います。

副委員長

長時間のご審議ありがとうございました。令和 8 年度から、第 5 次能勢町地域福祉計画となることから、7 年度はその確定に向けての協議になってまいります。本日はその基礎資料となるアンケート調査にあたりまして協議をいたしたところでございます。本計画が地域福祉の指針となり、住民に幸せをいかに感じていただくか、この計画から発出するものと思っております。今後も本委員会が、活発な協議の場となりますようお願いを申し上げまして、閉会のあいさついたします。本日はありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。では本日の内容は以上とさせていただきます。皆様ご多忙の中お集まりくださいましてありがとうございました。気を付けてお帰りください。